

ライオン学校伝書鳩通信

～支援の目的はどこへ？～



久々のライオン学校 ーなんだかいつもより静か？

昨年 12 月に行なった前回の支援以来約 2 ヶ月ぶりにライオン学校のみんなに会いに行って来ました。万石浦はまだまだ厳しい寒さが残り、時折雪もちらつく天気。そんな寒さのせいもあってか仮設住宅の周りも人はまばらでなんとなく寂しい雰囲気。ライオン隊の子たちは元気になっているだろうか？とみんなのことを考えながら私たちは万石浦に入りました。

いつもお世話になっている万石支えあい拠点センターに到着し、お昼の準備や机などを用意しながら子どもたちがやってくるのを待ちます。さっそく一組目の 3 人兄弟が現れて部屋のなかを走り回ります。さて、いつもならここから堰を切ったように子どもたちが次々やってきてすぐにぐちゃぐちゃの混乱状態になるのですが、今回はなんだか様子が違います。ポツ、ポツとしか子どもたちがやって来ません。寒い風も強いからみんな出てくるのを渋っているのだろうか？とまだ来ていない子のおうちに電話をしてみると、「熱を出してしまって…」、「風邪を引いてしまいました」と、多くの子が病気でダウンしてしまっていました。いつもより大幅に人数の少ない状態で今回のライオン学校はスタートしました。

人数が少ないとはいってもそこはライオン隊、静かなりに大暴れしてくれます。そのくせ外は寒くて出て行かないものだから部屋の中が広場状態。鬼ごっこに始まり、紙粘土で作ったボールでサッカー、座布団を使って秘密基地づくり。自分たちで次々に新たな遊びを始めては大人を巻き込んでしまぎまくりです。そこに大人の先導は必要ありません。時々、「外行くかあ～」と呼びかけるぐらい。はて？この場に私たちは本当に必要なのか？と思われるほどです。

昼食の様子も一変しました。今までずっと、席に座ってみんなと一緒にいただきますをできない男の子がいました。食事と一緒に取るのを嫌がり、活動が終わる頃に「お腹空いた」と残しておいた食事を一人で食べるという状態でした。それが今回、素直に座って嬉しそうにみんなと一緒にいただきますをして、そのうえ一緒に食事をしていたのです。ひとつひとつ、私達が心配していたことがなくなっていくます。ほんのわずかな変化ですが、その成長がとても喜ばしく感じられます。

昼食を終え、再び中と外での遊びをたっぷりしてその日の活動は終わりました。



久々の家庭訪問

2 日目は午後から別団体の方がセンターを借りていたため、活動は午前で切り上げて午後から久々に各家庭を回って様子を伺いに行くことにしました。午前で子どもたちを解散させ、いざ各家庭に出発です。

「午後は家に行くからな！」と言っておいたものの、子ども達はほとんど家にはいませんでした。お母さんたちから最近の様子や困ったことがないかを伺います。落ち着いてきて見える子ども達、おうちではなにかしらの困難を抱えているのではないかと読みでの家庭訪問でしたが、返ってくる言葉は「最近落ち着いていますね」、「すごく元気で、問題ありません」。ほとんどの家庭が、安定していて特に問題はないとのことでした。以前までの家庭訪問では、なんらかの課題が毎度持ち上がっていただけにひとまず一安心して帰路につくことができました。

震災から 2 年 - 3 年目に突入する子ども支援の“目的”の行方は？

早いもので今月の 11 日で東日本大震災から丸々 2 年の時が経過します。この期間、私たちは、「震災後の困難の中で生きる子ども達の支援」を目的としてこの活動を行って来ました。表面化する「荒れ」、学校・家庭環境の変化、いじめ等、震災は予期せぬ形で弱い立場の子どもたちを苦しめていました。この苦しみを少しでも除いてあげられたらという思いで、様々な方に支えていただきながら私達ライオン学校は活動を続けてきました。そして 2 年経った今、改めて子どもたちを見てみると、少なくとも私達が関わる子たちにおいてはその苦しさは姿を消して一旦の落ち着きを見せ始めているように感じます。「荒れ」は見られなくなり、学校・家庭も落ち着きを取り戻し、震災によって変化した環境の中でも新たに交友関係を築いて力いっぱい元気に過ごしています。家庭訪問を行なっても深刻な課題は出て来ません。このような状況に至って私達が今感じているのは、上でも述べたような「この場に私たちは必要なのだろうか？」という疑問です。

これまで通り「震災後の困難の中で生きる子ども達の支援」を支援の目的としている限りは、その使命は果たされつつあるのかもしれないと最近の活動を通して支援隊一同感じています。もちろん、まだまだ震災の影響に苦しみ、個別に見守って行きたい子はいますし、その子は継続して見守っていこうと思っています。しかし、全体としてみるとこの目的のままでは、これまで通りにライオン学校の活動を行なっていく意味は無いのではないかと感じるのです。だからといって、「よくなりましたね。はい、これで終わり。」とすぐさま終わらせられる状況ではないとも感じています。

このジレンマを解消するためにも、支援の新たな“目的”を見つけなければなりません。より長期的な意義ある支援を目指した際に、そこに付加される目的はなんなのか？そもそもその必要性は？手段は？その模索が 3 年目の第一番目の課題となりそうです。

気になる家庭への訪問(2月24日、3月3日)

通信にも度々話に出ている気になる家庭があります。周りの家庭が震災から立ち直りつつある一方で、その家庭は震災以前よりさらに生きづらい状況に陥ってしまっています。とりわけ、その家庭に暮らす女の子を私たちは気にかけています。その子を本当に支えていくためには私たちの支援だけでは無理だということを感じていました。そこで、Ed.ベンチャーの先生方とも相談し、地元の児童相談所を利用して学校・地域とつながりながらその子の問題を解決していく方針を立てました。私たちにとっても、大きな決断でした。その第 1 弾として、2 月 24 日、お父さんにその旨を伝えに行きました。しかし、事前に約束をしていたにもかかわらず、お父さんは不在。子供たちと荒れ果てた部屋を片付け、ゆっくりお話することにしました。結局この日はお父さんにお会いすることはできませんでした。

3 月 3 日にお父さんとお話する再チャレンジ。話しを聞くとすでに学校との間で話が進んでおり、児童相談所も利用しているとのこと。来年度から学校の体制も変わり、その子の周りの環境は大きく変化することになりそうです。その中で、その子が生きやすい方向に成長できるのか、私たちもかかわっていきたいと思います。今後、どのようにかかわっていくのか、お父さんと話しながら決めていこうと思っていますが、とても長期的にかかわっていくことになると思います。

・寄付を頂いた方(1月1日～3月9日)敬称略:東京理科大学こうよう会、吉間里依、佐々木亮

！寄付のお願い！

ライオン学校支援の活動費は寄付で賅われています。継続的な支援のためにぜひとも寄付をよろしく願います。

【活動記録】

- ①2月24日 家庭訪問
②3月2日～3日 万石浦ライオン学校支援
□支援メンバー：①大林沙紀、②甘利悠貴・大林沙紀・古浦新司(東京理科大学生)、藤原弘輝(光明学園相模原高生)

ゆうちょ銀行

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

グループ名:ライオン学校

連絡先:〒270-0101 千葉県流山市東深井 33-4

Ridai 古谷メゾン 201 号室

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: info.lionschool@gmail.com